

# レタス生産で世界最大級

## スプレッドが次世代型植物工場

12月完成へ

スプレッド(稲田信二)次世代型植物工場「テク社長、京都市下京区)は、ノファームけいはんな」



(京都府木津川市、写真)を着工した。単一のレタス工場としては世界最大級の生産能力を持ち、栽培工程の自動化を実現する。完成は今年12月の予定。

同社では、2007年から植物工場の「亀岡

プラント」(京都府亀岡市)を運営。日産2万1千株のレタス生産を行い、「ベジタス」のブランドで全国約2200店舗のスーパー・小売店で販売してきた。

13年には、植物工場事業では困難とされた黒字化を達成。さらに14年からはこれまで培ったノウハウを活かし、グローバル展開を見据えた次世代型植物工場「Techno Farm」の開発を進めてきた。Techno Farmでは、「低コスト」「環境対応」「グローバル展開」をテーマに、国内の設備

機器メーカーと共同で自動化栽培や水のリサイクル技術、環境制御技術、植物工場専用のLED照明開発やIoT技術のイノベーションを実現。オペレーションコストの削減と環境負荷の軽減に成功した。

その世界第1工場となるのがテクノファームけいはんなで、18年以降の稼働を予定。敷地面積1万1550平方メートル、建物面積3950平方メートル。日産3万株のレタスを生産し、ベジタスブランドとして全国に出荷する。さらに、研究開発に特化し

た施設も設置する。

今後は国内外の企業・団体とパートナーシップを結び、Techno Farmの建設を進めていく考え。国内では、フランチャイズ・オーナーシップモデルによって20拠点建設し、日産50万株の生産体制を敷き、国内レタス市場の10%のシェア獲得をめざす。海外では、現地のパートナー企業と協働し、技術提供、物流や販売支援などを行い、地域に応じた事業スキームを開発・提案していくこととしている。